

- 市町等と連携して就農相談対応、就農支援を行ってきたが、スムーズな就農と定着に向けて、**地域の受入体制づくり**をさらに進める必要があった。
- 市町、JA等関係機関、農業者と地域での就農者の受入と支援について検討して、**既存組織の体制充実**や、**JAの生産部会等での受入体制づくり**に取り組んだ。
- 4年間で、受入体制についての検討を18件行い、**受入体制の構築を12件でき、さらに11件で受入体制の充実が図られた。**

具体的な成果

■地域の受入体制づくり

- ・ 検討 18件
- ・ 構築 12件
- ・ 充実 11件

■受入体制が構築・充実できたことで、就農相談対応や研修先の確保・内容の充実、農地の確保、施設・機械の整備等の支援がスムーズに行えるようになった。

■体制づくりや就農者支援活動を進める中で、担当者間や農業者との連携もさらに深まった。

■就農サポートリーダーの新規登録

- | | | |
|----------|-----|--------|
| ・ R 1 年度 | 2 件 | |
| ・ R 2 年度 | 4 件 | |
| ・ R 3 年度 | 10件 | 合計 27件 |
| ・ R 4 年度 | 11件 | |

【事例】

J A伊勢では、産地の維持・拡大を目標に、子会社のあぐりん伊勢

で、R 1 年度からいちご部会を設立し、雇用型研修を実施。現在、卒業生 6 名が栽培開始、2 名が研修中。国事業を活用して独立時の貸出も可能な研修用ハウスを増設(20a分)し、研修受入能力の向上を図っている。

普及センターでは、座学等の研修支援や研修生・卒業生の地域農業者との交流推進、補助事業活用支援を実施した。



普及指導員の活動内容

◆関係機関と連携した就農支援活動の中で、就農希望者の就農、定着に向けて、地域の受入体制づくりの必要性を共有し、各地域に合った受入体制の内容について、検討した。

◆研修を担う就農サポートリーダーの確保に向けて、農業者等へ働きかけ、登録申請を支援した。

◆就農相談で、相談者の希望を聞き取り、方向性や就農に向けての準備活動を整理し、技術の習得が必要な場合は、研修先のマッチングを行った。

◆研修の充実に向けて、研修計画の作成を支援した。また、研修中の技術支援も行った。

◆青年等就農計画や経営収支計画の作成、農地の確保や施設・機械の整備、補助事業の活用など就農希望者の就農準備活動を、関係機関とともに支援した。

普及活動のポイント

◆普及指導員の持つ専門技術、コーディネート力等を、総合的に発揮して、市町、JA、農業者と連携して受入体制づくりや、就農希望者に寄り添った就農計画、就農準備支援を行い、就農に導いた。

三重県

新規就農者の確保・育成に向けた受入体制づくり

活動期間：令和元年度～令和4年度

1. 取組の背景

県内の独立自営新規就農者は毎年30～40人前後おり、野菜を中心に果樹、水田作が多く、年齢や経歴も多様化している。また、雇用就農者（農業法人等に雇用されて農業に従事する者）も多く、そこでキャリアアップを目指す者もあれば、研鑽して将来の独立を目指す者もある。

一方、産地では生産規模の確保、部会組織の活性化などに苦心しており、それぞれの地域を支える人材の確保を必要としている。

就農者の志す農業や適性が地域に受け入れられ、また地域の農業生産、組織活動が維持活性化されるような、就農の支援が求められている。

2. 活動内容（詳細）

普及センター、市町、JA、就農サポーター等と連携し、就農相談から就農準備、就農、定着に向けた連携、継続した支援を行う体制づくりをおこなった。

適切な研修先で技術習得と人脈づくりをおこなうことで、地域の一員として円滑に就農できるよう取り組んでいる。

また、これにより関係機関との連携支援体制が整理、強化され、JA子会社で研修～独立自営就農の支援を行う取組も出てきている。

3. 具体的な成果

伊勢志摩地域農業改良普及センターでは、JA伊勢・伊勢市と協力してイチゴ産地の維持に取り組んでいる。JAの子会社の「JAあぐりん伊勢」が営農を行い雇用型研修を実施。毎年2名程度を社員として雇用しイチゴ栽培に従事し、2年間の実践を経て独立就農させている。令和元年度から4年度までに卒業生6名が栽培開始している。新規就農者育成総合対策のうち就農サポート体制構築事業を活用し研修用ハウス等の充実を図るとともに、独立時の貸出用ハウスなど、近年の資材高騰のなかでも円滑に就農できる支援を進めている。

普及センターは座学等の研修支援や研修生・卒業生の地域農業者との交流推進、補助事業活用支援（産地生産基盤パワーアップ支援事業）を実施し、研修生の定着を支援している。より多様化する就農希望者に応えるために、イチゴ部会での研修生受け入れを進め、また、伊勢いちごスマート研究会を立ち上げて新しい技術の導入実証などに取り組んでいる。



4. 農家等からの評価・コメント

新規の人材が入りやすい環境づくり、地域づくりをすすめているのがいいと思う。（外部評価委員（指導農業士））

5. 普及指導員のコメント

普及指導員の持つ専門技術、コーディネート力等を総合的に発揮することが求められている。市町、J A、農業者と連携して受入体制づくりや、就農希望者に寄り添った就農計画、就農準備支援を行い、就農に導いている。

（中央農業改良普及センター 革新支援専門員 芳尾 美幸）

6. 現状・今後の展開等

市町等と連携して就農相談対応、就農支援を行っているが、スムーズな就農と定着に向けて、地域の受入体制づくりをさらに進める必要がある。

市町、J A等関係機関、農業者と地域での就農者の受入と支援について検討し、既存組織の体制充実や、J Aの生産部会等での受入体制づくりに取り組みます。